

南予 普及 だより

南予
令和八年
壹月

気候変動と水稻栽培のこれから 水稻高温耐性品種「にじのきらめき」 栽培が本格化

「にじのきらめき」（農研機構育成）は、①短稈で倒伏しにくい、②粒が大きく収量が多い、などの特性を持ち、令和6年度までは約20haと試験的な栽培でしたが、令和7年度は管内で約180ha作付けされました。多くのほ場で十分な収量が確保され倒伏もほとんどありませんでした。一方で、今年は紋枯病とごま葉枯病の発生が目立つなど課題も浮かびました。

【「にじのきらめき」の栽培ポイント】

- 肥料を多く必要とし、窒素成分で10kg/10aを基準とします。
地力の低いほ場はごま葉枯病が発生しやすいので、ケイ酸や鉄、マンガン質資材で土づくりをします。
- 分けつが旺盛なため、過繁茂によるいもち病や紋枯病の発生に注意する必要があります。
・栽植密度は基本的に50株/坪を超えないようにしましょう。
・箱施用剤の適正な選択と出穂期防除を組合せた体系的な防除を行いましょう。
- 止葉が最後まで緑を保ち、穂が葉に隠れていることから、刈取適期の判断に気を付けてください。



穂が葉に隠れるのが特徴



関係機関による指導巡回



収穫直前にじのきらめき
葉は緑だが穂は色づいている

イネカメムシ増加による防除対策

県内に6カ所ある予察灯でイネカメムシの急激な増加が確認され、
誘殺数のほとんどを南予（西予市、愛南町）が占めています。
南予で「イネカメムシ」は斑点米カメムシの主要種と言えます。

【イネカメムシの特徴】

- 成虫の体長は12~13mm
- 出穂とともに水田に侵入し、若い穂を好んで加害
- 斑点米の原因のほか、不稔による減収を招く

【イネカメムシの防除対策】

- 出穂期（不稔防止のため）+出穂期後10~14日後の2回防除を行いましょう。
- 既存の斑点米カメムシ類の薬剤で対応可能ですが、特にスタークル、キラップの効果が高いです。
- 「ひこばえ」の穂が出る前に耕起して、カメムシの餌をなくしましょう。



■愛南町 ■西予市 ■久万高原町 ■松前町 ■松山市 ■西条市



イネカメムシ（成虫）



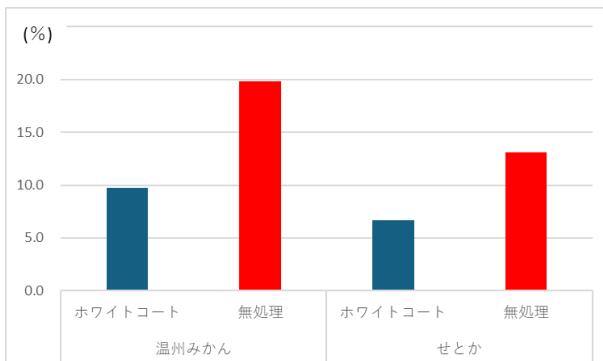
高温対策で気候変動に備える！



かんきつの日焼け対策

- 夏期の高温によるかんきつ日焼け果の発生が課題となっていることから、関係機関が連携協力し、炭酸カルシウム剤を利用した軽減対策を実証しています。
- 「温州みかん」と「せとか」あわせて15園地において、7月上旬から1～3回散布し、日焼け果の発生状況等を調査しました。

※発生果率各園地1樹30果×3樹を調査



日焼け発生果率



薬剤散布の様子

- 散布区の発生果率は、無散布区に比べ半分程度に抑えることができましたが、果実の白斑が残る等の課題が確認されました。
- 単年度の調査であるため次年度も調査を継続するとともに、着果位置も含め軽減対策の指導方針を検討していくこととしています。



施設キュウリの遮熱資材比較実証ほ設置

- 鬼北農業指導班では、施設キュウリの抑制作型において、定植期～生育前半の高温対策として、遮熱資材の昇温抑制効果を比較検討する実証ほを設置しました。

【展張被覆タイプ】

- ふわふわホワイトプラス40
- 清冷

【外張り塗布型資材】

- トランスファー
- を用いて比較しました。

ハウス ①	ふわふわホワイトプラス40
②	ふわふわ + トランスファー
③	清冷



各種遮光ネット設置後の様子



遮光剤のドローンによる塗布

トランスファー

- 単独での昇温抑制効果は認められませんでした。

- ノズルの目詰まりが発生し、作業性の改善が課題となりました。

- 8月の室温調査では、各ハウス1.8～2.6℃の低下を示しました。9月の生育調査では、主枝の着果開始節位は同程度であり、各区間でその他生育や果実肥大等に達観で差が認められなかつたことから、収量性に大きな差はないと判断しました。

2種類の展張被覆資材の間に温度抑制効果の差はありませんでしたが、照度について、生産者から「清冷の方が明るく感じられる」と評価が得られました。

- 以上の温度抑制により、作業者の労働環境の改善が期待できます。遮熱資材の特性や作業性を踏まえ、今後さらに地域条件に適した実用性の高い高温対策技術の確立を目指します。

最新！スマート農業特集

in 鬼北

自動航行ドローンによるクリ園防除の実証と研修会の開催

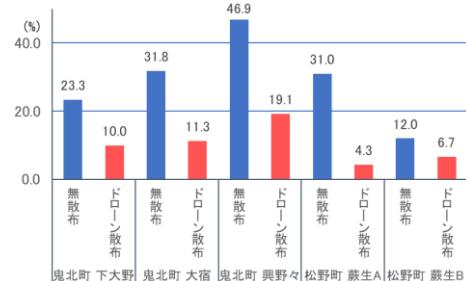


クリ

- 管内の多くのクリ園は、傾斜が急で、周囲を高い雑木林に囲まれているため、目視による航空防除は非常に困難であり、解決策として高度な位置情報（RTK）を活用したドローンの自動航行散布が不可欠となっています。
- この課題に取り組むため管内5か所のクリ園でドローンによる自動航行散布の実証実験を行いました。また、鬼北農業指導班が管理する園地ではオペレーター向けの研修会も開催。研修会では、最新型ドローンを使用し、RTK測位の仕組みから自動航行ルートの設定方法まで説明の後、実際に農薬を散布するデモンストレーションを行いました。
- 5園地の防除効果は、ドローンで1回のみの散布でも果害虫被害を1/7～1/2程度まで低減させることができ、比較的安定した防除効果が得られました。
- 生産者からは、「殺菌剤も散布できるようになるのか」といった登録拡大を急いでほしい旨の要望が相次ぐなど、期待の高さがうかがえました。



自動航行運航図
(鬼北農業指導班)



各クリ園の果害虫被害率

今後は関係機関とともに、ドローン防除に係る経費負担の軽減策についても検討し、中山間地域へのドローン防除の普及につなげていきます。

ブロッコリー・河内晩柑のドローン防除実証の取組み



愛南町では、担い手の高齢化、担い手不足に対応できる省力栽培体系の確立に向け、ドローンの利活用を推進しています。

ブロッコリー

- 令和6年度に10月定植の作型でドローン防除体系実証に取り組んだ結果、茎葉の食害は慣行の手散布と遜色ない結果となり、同等の収量・品質となりました。
- 今年度は、最も病虫害の発生リスクの大きい9月定植で実証を行うとともに、殺虫剤・殺菌剤の混用試験も実施しました。その結果、収穫まで病虫害の発生を抑制できたうえ、混用試験においても葉害は見られず、一定の防除効果を確認できました。

河内晩柑

- マンゼブ剤を使用したドローン防除実証を実施し、令和6年度は散布ムラとドローン防除に適した園地体系の確立が課題となりました。
- そこで、令和7年度の実証では防除体系は変えず、樹形がコンパクトな段々畑で実施したところ、散布ムラの軽減と付着面積率の向上が確認されました。
- 今後は2月頃に収穫調査を実施し、品質を確認する予定です。



ブロッコリーのドローン散布（上）
河内晩柑のドローン散布（下）

愛南町では、農薬散布でドローン防除等を委託した生産者には、10aあたり1,500円の補助金を交付しており、町、県が一体となってスマート農業の普及推進を行っています。

✿ 担い手支援の新たな取組み ✿

宇和島ルリアン（さくらひめ女性組織）

- 令和7年3月に宇和島市の女性農業者の有志が集まって発足したグループ「宇和島ルリアン（渡邊眞由美代表）」は、国の事業を活用して活動を本格スタートしています。
- まず、9月にはハ西地区の女性農業者グループ「∞農ハーベスト」と交流、10月には有限会社熊野養鶏（四国中央市）やさいさいカフェ（今治市）で女性起業家等の先進事例を調査しました。
- 今後は、SNSを活用した農業の魅力発信に取り組み、南予への集客アップに貢献したいと考えています。



ハ西地区女性農業者グループとの交流の様子

就農をサポート！「KIHOKUアグリ講座」



クリの選別方法を習得



- 鬼北農業指導班では、松野町、鬼北町、JAと就農研修検討会を開催し、両町農業公社の就農研修生や新規就農者を対象とした講座内容について検討を重ねてきました。
- その結果、管内で比較的栽培面積の多いキュウリやクリの栽培技術や、農業簿記・農作業安全の研修、新規作物として「愛媛果試第28号（紅まどんな）」の栽培セミナーなど、令和7年度は8回の講座を開催することとし、計画的に取り組んでいます。
- 受講者からの要望も取り入れながら講座を実施し、さらに農業の技術や知識を深めてスムーズに就農できるよう、そして少しでも早く経営が安定するように支援していきます。

農業者と普及拠点をつなぐ『ファームチャット』を知っていますか？

- ファームチャットとは、愛媛県が導入を進めている農業者と普及拠点間のチャットソフトです。お手持ちのスマートフォンで病害虫診断や防除、栽培・施肥などの基礎管理等、様々な相談が行える新しいサービスです。また、異常気象等の対策情報も発信します。
- 多くの方が利用されているメッセージアプリのような使用感です。何か困ったことがあったときは、各拠点の普及指導員がお答えします。ご興味のある方、ぜひ利用してみてください。
- 利用に関しては、申請が必要となります。申請を希望される方は南予地方局農業振興課までご連絡ください。

